

遊星の寝返りの下で

大岡信 書肆山田版

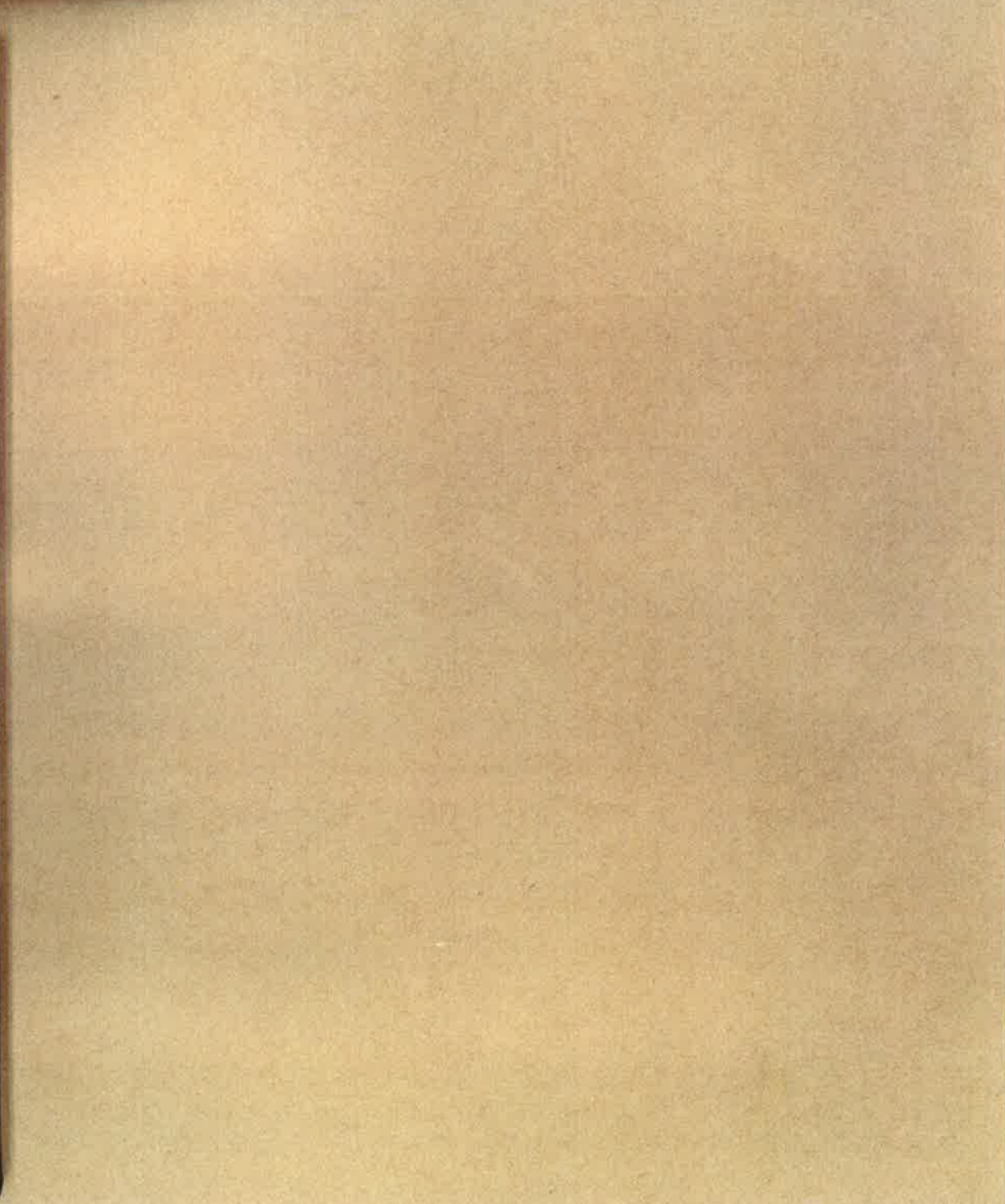
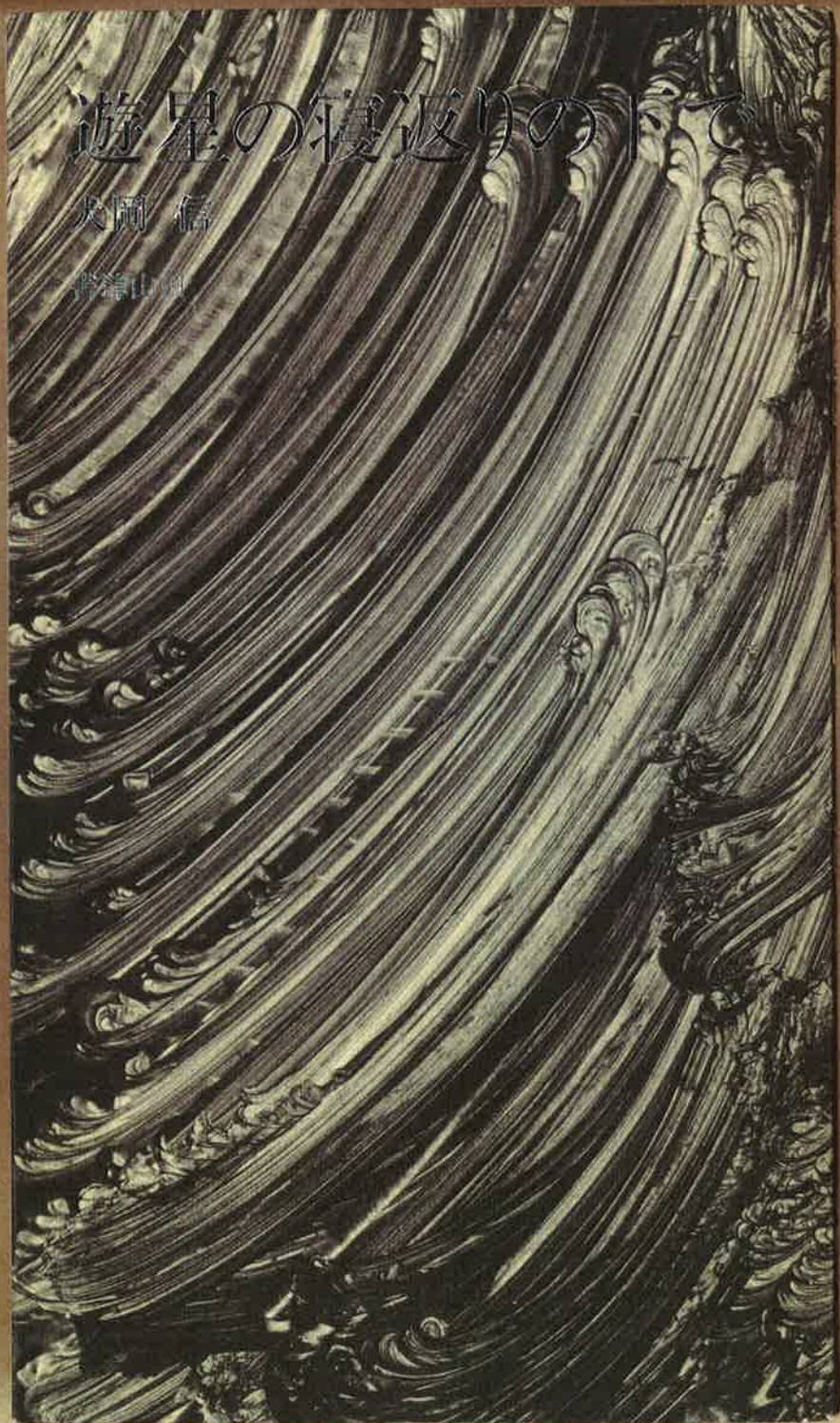


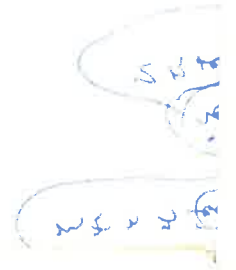
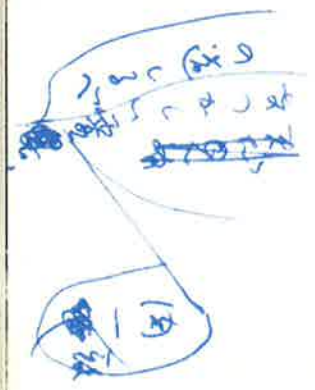
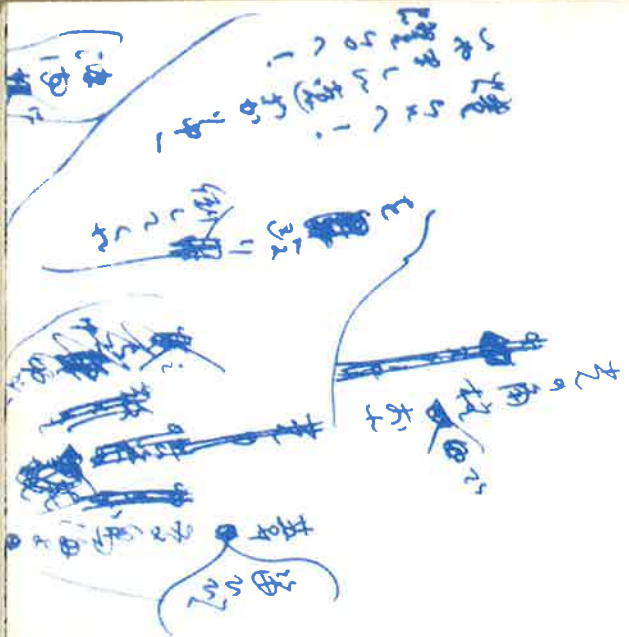
1092.1003 3426
1092.1003 3426

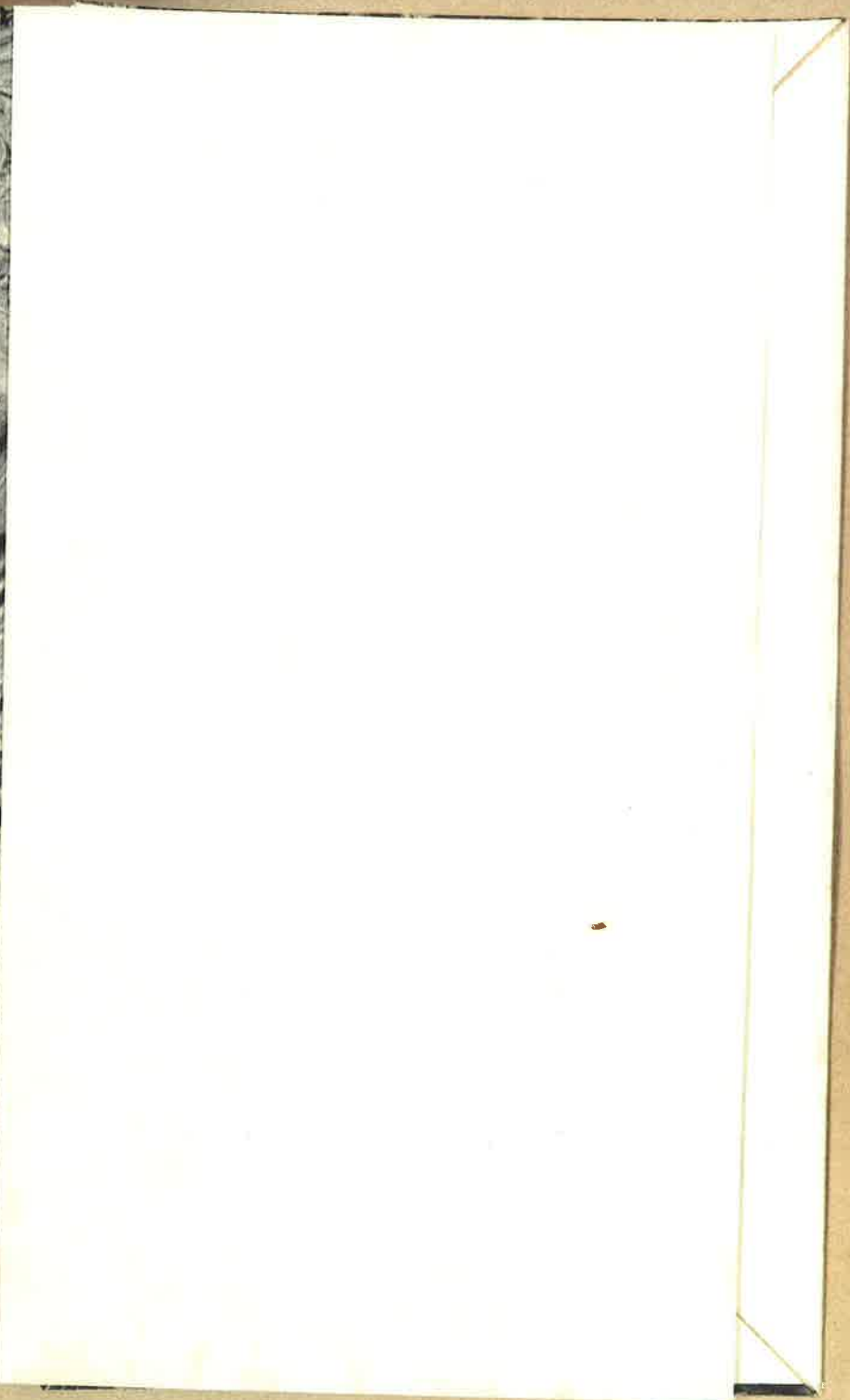
遊星の寝返りの17

大岡 信

藤澤山房







大岡信 遊星の寝返りの下で 書肆山田版

目次

6 呪

8 彼女の董る肉体

28 地球人Tの四つの小さな肖像画

32 きらきら

44 言ってください どうか

54 螺旋都市

呪じゆ

死者よ この乾ききつた岩石に棲み そして遙かな樹根に棲め

たとえば色なら しののめの色 溢れる泪なみだの真珠色の光沢ひかりとなれ

死者よ 二つの凍った極を持つこの遊星の 千の頂きに 同時に棲め

たとえば足なら ハイエナ 駝鳥 襲うコブラのつむじ風となれ

死者よ 光のとどく限りの涯の 暗黒の淵に去って棲め

たとえば手なら 海に湧く大渦卷メランゲル 糸を刺す乙女の指のすばやさとなれ

死者よ 足跡を消し 清浄な空の道をたどり 黄金おうごんの波に横たわって棲め

6

たとえば歌なら はてしない軍旅の歌 恋の歌 永遠の地虫の歌の涼しさ

となれ

死者よ 日光ひかりもささぬ沼に棲むわれらを見捨て 舌にひびく果実となつて

再臨せよ

たとえば息なら 阿吽あうん 嬌喘ためいき 鬼吹おにのいきの浄火となつて再臨せよ 再臨せよ

再臨せよ

死者たち

7

新版のためのがき

この詩集は一九七五年七月に刊行された限定九七五部の『遊星の寝返りの下で』（定価六千円）の新版である。元の版は加納光於氏の装本で、縦31センチ、横18センチのフランス装、表紙、見返し、扉および箱が加納氏の作品によって飾られ、目次や本文の活字の指定、組み方の指定もまた、加納氏によってなされた。今度、書肆から普及版を出したいとの申し出があり、あらためてこの新版が刊行されることになった。元の版よりも小型だが、ページ建ては元の版と全く同じに組んである。新版でも加納光於氏が表紙、扉絵および口絵を新たに作って下さった。加納氏の一九七七年における新展開を示す作品によって、この詩集が包まれることを幸せに思う。表紙の

加納氏の作品は四色刷りであることを付言する。また、元の版の若干の誤りを正したので、本文に関していえば、今度の新版が定本ということになる。この詩集には、私自身の詩に関する考え方をたしかめる上で重要な意味をもっていた作品が収められているので、新版を出してくれる書肆の好意を有難く思っている。

一九七七年十二月

著者

装本・口絵 加納光於

詩集遊星の寝返りの下で * 著者大岡信装本加納光於発行昭和五十二年十二月二十日発行者山田耕一発行所書肆山田横浜市西区高島二丁目十九番十二号スカイビル二階電話〇四五(四五三)三五九八本文印刷蓬萊屋印刷所表紙印刷精興社製本岸田製本所 * 定価二〇〇円